

かいけ心正こども園では、今年度の園運営（令和5年度教育推進の重点と実践）について職員が自己評価を行いました。その結果と取り組み状況についてお知らせします。

1. 令和5年度に定めた重点項目に取り組むにあたり設定した学校評価の具体的目標

学校評価の趣旨を理解し自己評価を行うことにより、職員自らが客観的に自園の教育・保育を振り返り、施設等の改善、教育保育内容の改善に取り組んでいくための姿勢を身につける。

2. 評価項目の達成及び取り組み内容

職員にアンケートを実施し、各自が各項目について評価したものを総合的に判定しました。

【評価の基準】

A) 十分達成されている B) 達成されている C) 取り組まれているが、成果が十分でない D) 取り組みが不十分である

評価項目	取組内容	結果	結果説明
1 園の教育方針・内容	1 園訓・教育理念・教育方針のもと、0歳児から就学前までの「目指す子どもの姿」を具体的にイメージすることができる。	A	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに、園訓・教育理念・教育方針を全体計画に提示すると共に、朝礼で唱和し職員間の共通理解を図った。また、保護者の理解や協力、職員の保育への姿勢から、概ね基本理念を、具体的にイメージできていると考える。
	2 園の全体計画及び教育課程は、認定こども園教育・保育要領を踏まえ園の理念に則したものになっているか、教職員間の共通理解のもと、定期的に見直しを行うようにしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎月行っている月案会で、こどもの育ちの姿や昨年度までコロナ禍でできなかった保育活動等を振り返り、指導計画の見直しを行ってきた。また、同学年と異学年の保育活動の確認を行い、つながりある保育内容になるようにした。
	3 園の方針（良い生活習慣の実践【感謝】とSDGs活動等）や特色教育を指導計画や保育に生かそうとしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も、園全体でSDGs推進のための取り組みとして、「心正の森大作戦」や活動の新聞掲載等を行った。 毎月の指導計画の中に、特色教育やSDGs活動を記載した。各年齢の保育実践を振り返る際には、保育内容を見直す機会を作り、計画的に取り組み、「食育推進活動」知事表彰につながった。
2 職員の職務	4 全職員がコンプライアンスに関心を持ち、理解に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員の採用時に必ずコンプライアンス研修を行い、朝礼終礼等で定期的に職員への情報共有や注意喚起を行った。今後もコンプライアンスの知識や意識を持つよう徹底し、信頼ある職員であるよう努めていく。
	5 全職員が「かいけ心正こども園」の一員としての自覚を持ち、共通理解を心がけている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の朝礼や終礼、職員への全体報告日（月1回）などで情報共有や共通理解などを行った。また、時差出勤等による働き方により連絡漏れがないよう、職員メールやタブレットも活用した。
	6 全職員が様々な研修会（オンライン研修や園内研修等）に、積極的に参加している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 様々な分野の研修案内を回覧し、自己研鑽できる環境を心がけ、ハイブリット型研修をできるだけ利用したが、参加職員にばらつきがあった。特色教育の外部講師による研修には交代で参加し、同僚同士での学びを深めた。 造形教育では、実践美術教育学会（8月）での研究発表を行い、特色教育の資質向上に努めた。
	7 全職員が、言葉遣いや立ち居振舞いなどに気を配り、こども達の人権を尊重し、お手本としての姿を心掛けている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 「こどものお手本」になる言葉遣いや振る舞いを、その都度確認していたが、職員によって意識のばらつきが見られ、徹底できていない部分が見られた。今後は、職員間でお互いに声掛けしながら、園全体でさらに実践できるよう努力していきたい。

3 地域交流・施設管理	8	園の教育方針や考え方について、保護者に分かりやすく伝えている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 園からの定期的な便り等（園長だより・学年だより・特色だより）で、園の方針や取り組みを保護者の方にわかりやすく伝えるよう努めた。また、実際にこどもたちの様子をわかりやすく、HPや携帯メール、インスタの他にドキュメンテーションを導入し「保育の見える化」に努めた。
	9	保護者のニーズの把握につとめ、職員間で共通理解をし、要望や苦情に適切な対応をしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 全職員の情報共有を徹底し、保護者の方の要望等に対して、素早い対応が出来るように努めた。
	10	小学校や公民館など地域との連携につとめている。（保幼小連携・学校訪問・二次避難場所等）	B	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の小学校に年長組が学校訪問し、校内や授業の様子を見に行ったり、年中組は敬老会に参加したり、公民館祭に製作物を展示したりした。また、全園児で、二次避難場所（福米西小学校・公民館）を実際に歩いて確認した。今後は、園児が小学生や地域の方々と直接の交流や連携ができるようにしていきたい。
	11	園が行っている子育て支援（穂咲む・学童保育等）について具体的な形や内容を理解し、職員全体で協力して行っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援サークル「おひさまくらぶ」は、月2～3回（6月～）の開催で、計画通り行うことができた。また、個別での子育て相談も多数あり、今後も引き続き、幅広く来園して頂けるよう企画をしていきたい。
	12	広く地域の方々に園の教育理念や教育方針を理解してもらえるように、園の情報をHP・インスタ等で常にわかりやすく発信している。	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、「保育の見える化」ということで、できる限りこどもたちの様子をメールやインスタ・動画アプリ等を活用し動画配信した。また、地元のテレビや新聞等にも取り上げてもらい、園の様子を地域にも多く発信できた。
	13	様々な防災対策を進め、防災についての知識や訓練をおこなっている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練年間計画に沿って取り組み、職員および園児の安全教育や防災意識を高めるように努めた。 引き渡し訓練や職員の防火訓練も定期的実施した。

3. 学校評価の具体的目標や取り組み内容の総合的評価結果

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、コロナ禍で行えなかった行事や保育活動など、「こどもにとって今何が一番大切なのか」を丁寧に検討し、工夫しながら行事を実施した。日々の保育活動の様子は、メールやインスタ等で動画配信することで、家庭での親子の会話につながり、こどもの小さな変化や育ちを共有して頂けるよう「保育と育ちの見える化」に取り組んだ。 行事については、職員の働き方改革という観点から、12月の生活発表会を平日開催した。保護者や職員アンケートでは、おおむね平日開催について「よかった」という意見を頂いた。 毎年12月に、保護者の方に「学校評価アンケート」にご協力頂いている。その結果、園に対しておおむね理解を得られているように感じられる。 子育て支援については、子育て支援事業「穂咲む」を始動し、未就園児向けの子育てサークル「おひさまくらぶ」や園開放、子育て支援スーパーバイザーによる子育てについての個別相談を開催することができた。今後も、多くの方に園の様子を知ってもらうために、さらに子育て支援活動の内容を充実していきたい。

4. 令和6年度の重点項目

- ① 地域に必要とされる認定こども園として、こどもの最善の利益のために、幼児教育・保育の充実を目指し、教育的特色の強化を図る。
- ② 「かいけ心正こども園」の一員として、質の高い幼児教育の提供のための環境整備に努める。
- ③ 「地域の総合子育て支援センター」として保護者や地域から理解され、安心安全な施設となるよう努める。